

古文書を読む会学習記録

作成日 平成26年 1月29日

開催日	平成26年 1月23日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂	出席人数	13 名
講 師	真田雅行氏	作成者	内田孝知
テーマ	第2学習 江戸時代の絵島生島事件 ①		
概 要	<p>絵島事件は月光院(6代家宣の側室、7代家継生母)の大年寄(筆頭女中)絵島の増上寺への代参より風紀紊乱事件へと発展したものであるが、將軍跡継ぎに揺れる幕閣の権力闘争も垣間見られる。事件として発覚した背景には次の3つが考えられる。</p> <p>1. 枯木集 (国立公文書館蔵)</p> <p>正徳4年正月14日代参の後、木挽町山村長太夫座の芝居見物となったが、大酒盛り等大騒ぎになり、供奉していた伊賀同心より帰城の刻限である旨具申されると絵島はいたく立腹して“慮外者”(無礼者)と断じて叱りつけ、帰城後これを同心の上司御広敷番頭に告げた。広敷番頭が同心を調べたところ上記事実が発覚、これを上司の御留守居方へ注進、更に老中へ申し上られ、老中・大目付・目付・町奉行(最高評議機関)が取持ちの中村清助、清五郎はじめ関係者を詮議(2月2日呼出)した結果、絵島不義の次第が判明したとして、3月6日決着、関係者の御仕置(判決)が仰せ付られた。</p> <p>2. 研齋雑録 (国立公文書館蔵)</p> <p>絵島方より明日御代参には馳走は無用だが、堺町、木挽町へ芝居見物はしたい旨役僧に告げた。芝居について話が付かず絵島立腹、絵島は後藤縫殿手代次郎兵衛、清助に山村長太夫芝居見物を申付け、棧敷5、6間、弁当百人前用意させ、御包金70両、銀貳貫目、外呉服物を配り、供奉の諸士も含め男女130名、五郎右衛門(代参参加の御徒目付)は何度か帰城を促したが絵島納得せず、廊下伝いに山村宅へ移動して言語に絶する遊び。皆権勢を恐れ、我儘な絵島が若君(家継)へ何を申されるか、諸役人は女中と同罪とされるを恐れ申合せして、支配の若年寄へ一書を以て告げた。</p> <p>3. 墨海山筆 (国立公文書館蔵)</p> <p>有章院(7代家継)乳人(めのと)の芝御廟(増上寺)へ参詣の際、木挽町芝居見物の件で後難を恐れた役僧祐海より後日寺への不審無き様申し達しあり。</p> <p>乳母は帰城後ひそかに月光院へこれを報告、老中へも届け出た。2月朔日の日光御餅頂戴行事が済むまでは沙汰なし。供奉の御小人目付4人申合せ、“芝居の義はなりませぬ”と具申したが、絵島、宮地(寛永寺へ代参した年寄女中)兩人聞き入れず、逆に金子を与えられた。併し後難恐れ御広敷番頭へ届け出た由。</p>		
補助資料	① 芝居小屋の図 ② 絵島囲み屋敷図面他 ③ 大奥役職一覧他 ④ 江戸の刑罰		
次回予定	平成26年2月13日 10:00～12:00 於:金沢公会堂3号室 第1学習 宿村 布川家文書 ②		